

令和4年度 自己評価書

学校名

北海道厚真高等学校

1 本年度の重点目標

重点目標

- (1) 基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着及び読解力の向上を図るとともに、自ら学び主体的に学習に取り組む生徒を育てる。
- (2) 言語活動や体験的な活動などとおして、よりよい人間関係や社会性を育成するとともに、自己表現が適切に表出できる生徒を育てる。
- (3) 自己の適性を理解するとともに、将来の進路設計を明確に持ち、未来を切り拓く向上心にあふれ、課題解決に必要な思考力、判断力を持った生徒を育てる。
- (4) 豊かな感性や寛容の精神及び自他の生命を尊重する意識と態度を持ち、自ら正しく判断して行動できる生徒を育てる。

2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成状況	取組の適切さ	今後の改善の方策
大項目	中項目	小項目			
学習指導	・基礎的・基本的な知識技能の定着 ・主体的な学習	(指標) 生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、「朝学習」の取組等に係る肯定的な回答が70%以上となることを目指す。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が70%以上を評価A、50%以上を評価B、50%未満を評価Cとする)	A	A	肯定的回答89%、前年度87%と比べ増加。職員の取組は3.5で0.1低下。学習に向かう姿勢の乏しい生徒が一部いる。次年度はさらに向上を目指す。
		(指標) 生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、家庭学習に関して「取り組んでいる」「概ね取り組んでいる」等の肯定的な回答が60%となることを目標とする。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が60%以上を評価A、40%以上を評価B、40%未満を評価Cとする)	B	B	肯定的回答47%、前年度51%と比べ年々減少傾向にある。課題に対する意識の改善や実施方法の工夫が必要。次年度は向上を目指す。
		(指標) 授業の途中退室について、1人あたり前年度比減を目指す。 (新指標 前年度比減を評価A、変化なしを評価B、前年度比増を評価Cとする)	A	A	実数345名、前年度368名、前年度と比べ改善した。次年度はさらに改善できるように取り組む。
生徒指導	・公共の精神や社会規範を尊重する意識と態度 ・自ら判断し行動する	(指標) 朝の遅刻を、1人あたり前年度比減を目指す、指導啓発を行う。 (前年度比減を評価A、変化なしを評価B、前年度比増を評価Cとする)	A	A	・実数は251名であり、前年度259名と比べて若干減少した。教員による朝の出迎え活動、集会を活用した啓発指導など、今後も多面的な取組を積極的に進める。
	・生徒理解に努めた継続的な指導 ・規範意識の育成、連携のとれた指導体制の確立	(指標) いじめアンケートで、「いじめはどんな理由があっても許されない」との回答率100%を目指し、そのための啓発指導を行う。 (回答の割合が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満は評価Cとする)	A	A	・「そう思う」との回答90%。いじめに対する啓蒙活動が影響している。職員の取組は3.8と高い。次年度も100%を目標に各HRや全校集会時における指導、組織的な対応の充実を図る。
進路指導	・3年間を見通した指導	(指標) 進学・就職希望の年度内進路決定率を100%とする。 (内定率が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満を評価Cとする)	B	A	・進路決定89.3%。新規高卒求人では難しい障がいを抱えた生徒の就職支援が課題。個別の職業指導も含め、様々な取組により、職業観・進路意識を涵養し、早期に取り組んでいく。
	・進路情報の収集および資格・検定の取組	(指標) 生徒の資格・検定取得等の取組として受検率100%を目指すとともに合格率の向上を図る。 (受検率が80%であれば評価A、60%以上が評価B、60%未満を評価Cとする)	B	B	・65.3%(前年97%・前々年86%)であった。1年生30.4%、2年生68.2%、3年生92.6%であり、2月末に受検予定があるが、次年度も取組を進め、合格率の向上を図る。

3 次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

- ・学習指導について、本校の「育成すべき資質・能力」を育むために、生徒の実態に即した取り組みを進める。
- ・生徒指導について、家庭との連携に努め、全教員による日常指導や予防的活動で規範意識を育成する。
- ・進路指導について、望ましい職業観を育み、進路意識を高め、資格・検定取得へ積極的な取組を涵養する。